



情報処理技術者の役割

利用者側の資格

エンドユーザの代表として
業務改善を推進する

上級システムアドミニストレータ

この上級システムアドミニストレータも初級と同様、エンドユーザの代表として、EUCを推進していきます。異なる点は、初級は自分が在籍する部門内のEUCを推進していきますが、上級は複数部門および企業全体のEUCを推進する役割を担っています。その為、全社的な経営戦略、ビジネス戦略を理解、判断できる知識や技能を持っていることが期待されています。

情報セキュリティアドミニストレータ

情報セキュリティアドミニストレータは情報セキュリティの現場責任者です。セキュリティポリシーの策定やセキュリティ侵犯の監視をし、侵犯時には原因の追求と改善策の策定を行います。そのためセキュリティの運用・管理・技術・製品及びガイドラインや関連法規等の幅広い知識を必要とします。

初級システムアドミニストレータ

普段は企業内の各部署（人事部、経理部、営業部など）の一員として仕事をします。そして、新しくシステムを作るときやシステムの改善をするときに、パソコン利用者（エンドユーザ）の代表として、担当部署の業務にあった使いやすいシステムができるように、システム部などの開発担当者に要望を伝えたり助言を行います。適切な助言をしたり、要望を伝えるにはパソコンやITに関する知識はもちろんですが、自部門の業務に関する知識も必要になります。このようにシステムアドミニストレータとは単に「パソコンを使える」「ITの知識がある」ということにとどまらず、ITを駆使して業務を改善していくリーダーの役割を担っているのです。パソコンが1人1台与えられる現在では、あらゆる業種の企業とその各部署において役に立つ知識といえるでしょう。

初級シスアドの役割 自部門の業務改善リーダー

- ◆ 仕事上の問題点を把握し、IT（情報技術）を活用してその解決を図る。
- ◆ 必要な情報システムを一部構築したり、その支援を行う。
- ◆ 情報システムの開発者に利用者側の意見や要望を提起する。
- ◆ 情報システムの運用環境とシステム利用環境を整備する。

エンドユーザとして
IT知識を活かすなら



情報処理技術者試験は経済産業省が認定するIT関連資格唯一の国家資格です。

試験は「利用者側の資格」と「開発者側の資格」の大きく2つに分かれ、全13試験区分で構成されています。初級システムアドミニストレータと基本情報技術者をベースに、より専門分野に特化した上位試験区分へとステップアップしていけます。

開発者側の資格

プログラマ・システムエンジニア
を目指す

ゼネラリスト系

システムアナリスト

経営戦略に基づくシステム化プランを描くことの出来る人材。具体化されたプロジェクトの支援と評価を行います。

プロジェクトマネージャ

システム化プランを具体化するための開発プロジェクトの責任者として人員の確保、予算、納期、品質等を管理し、業務が円滑に行えるようにします。

アプリケーションエンジニア

プロジェクトマネージャ指揮のもとシステムの基本設計を行いつつ、ソフトウェア開発技術者を指揮してシステムの構築にかかわります。

スペシャリスト系

テクニカルエンジニア

■ ネットワーク

ネットワークの専門家として情報通信ネットワークの計画、設計、運用、業務を安定的、かつ効率的に遂行します。

■ データベース

企業や組織のデータ資源をデータベース化し、有効に使用できるようにする情報管理の専門家です。

■ システム管理

システムの運用だけでなく、システム資源全体の管理に関する知識が要求されます。

■ エンベデッドシステム

携帯電話、PDA等のモバイルや家電製品などで使用されるマイクロコンピュータをシステムとして開発・設計できる専門家です。

独立した役割

システム監査技術者

第三者の立場から、経営サイドの視点で、情報システムが経営に貢献しているかどうかを、幅広くあらゆる側面から調査して、問題点の指摘および改善勧告を行う立場の人材です。この為あらゆる角度から分析できる情報技術の知識と経験が求められます。

ソフトウェア開発技術者

上位技術者（アプリケーションエンジニア等）指導のもと、内部設計書、プログラム設計書の作成をします。また基本情報技術者を指導する役割も期待されています。次のスペシャリスト系、ゼネラリスト系等の技術者へのステップとして重要な位置づけの資格となります。

基本情報技術者

情報システムを開発する際に、上位技術者（ソフトウェア開発技術者など）の指導のもと、与えられた設計書をもとに実際にプログラムを作成します。ソフトウェアの会社などでプログラマ、システムエンジニアとしての道を進む人にとっては、業務上必要となる基礎知識を身につける必須の資格です。基本情報技術者は実際にシステムの開発に携わっていきますので、試験においても情報技術全般に関する基礎的な知識に加え、プログラム言語の知識も問われます。

このように基本情報技術者は、システム開発者を目指す方には登竜門かつ必須の資格となります。シスアドに比べると、その知識が生かせる職業もエンジニアなど、より専門的なものになってきます。

基本情報技術者の役割 プログラマの必須知識

- ◆ 情報技術全般の基礎知識を活用し、システム開発に携わる。
- ◆ 上位技術者の指導のもとにプログラム設計書を作成する。
- ◆ アルゴリズムやデータ構造に関する知識に基づいて、実際にプログラムを作成する。
- ◆ 作成したプログラムのテストを実施する。

